

「土砂災害防止について」

長野県 佐久市立臼田中学校 1年 ^{かんざき しおり} 神崎 志織

私の住んでいる佐久市では8月1日になると親戚が集まって、お墓の掃除をします。お盆が近いのでそのためかと思っていましたが、お墓の掃除のために大人は会社を休んだり、とおくからわざわざやってくる人もいてこの地域では大切な行事になっています。このことを不思議に思ったので調べてみました。

このような行事がいつのころから、何がきっかけで始まったのかはいろんな説がありますが、ひとつの説としてこの地方で起こった災害があると聞きました。その災害は「戌の満水」と呼ばれています。

戌の満水について、地元の図書館で調べたら、簡単に、このような災害だったということがわかりました。

この災害の主な原因は、本州中央部に上陸した台風による大暴風雨だったそうです。1742年7月27日「現在の8月27日」から降り出した雨は、約4日間ふり続けました。それにより、川が氾濫し洪水が発生したり、地盤がゆるんだことから、土砂崩れやがけ崩れを引き起こしました。その上、土砂崩れの一部は一時的に川をせき止め、その後鉄砲水なども発生させました。

この災害は長野県でも大変大きな被害をもたらしました。千曲川周辺の各地域で沢山の被害者を出し、わかっているだけでも約二千八百人に及ぶそうです。

私たちの住む佐久市はどうだったのでしょうか。

悲しいことですが、この佐久市でも大変な被害を出したそうです。千曲川の氾濫や周辺の小さな川もあふれてしまい、田んぼや畑に大きな被害を出し、その後の食料難も合わせると大変な犠牲者、被災者が出たそうです。この災害により、家も、家族も失ってしまった人もたくさんいて、かわいそうだなとおもいました。また、隣の佐久穂町では、とても大きな土砂崩れが発生しました。犠牲者は248人にのぼったそうです。

私は、これほどの大災害があったことを今まで知りませんでした。でもこの話は、いまでは昔話なのでしょうか。

昔の人達が、これらの出来事を忘れないように、今に伝わる行事として8月1日のお墓参りを残したのだとすれば、私たちは同じ災害に対し、どのように向き合っていったらよいのでしょうか。

私が思う一番の対策は、危険箇所を知っておくことが一番大切だと思います。台風などで水害の危険性が出てきた時に、あらかじめ準備をしておいたり、早めの避難ができるからです。

この機会に自分の周りの危険箇所を知っておこうと思、臼田地区のハザードマップをインターネットで見ました。ここにはどこの場所にどんな危険があり、その危険度合いはどのくらいなのかがわかるようになっています。

これを見たら、私の家の周りには、はっきりと危険を示されている所はありませんでしたが、私の通学路の千曲川周辺や、小学校の時通っていた通学路の一部に崖などがあり、心配な箇所がいくつかありました。

私の家の裏にも山があり、父に何か起こったことがあるのか聞いてみました。すると昔家の裏山でも、大雨の時に山から水がしみ出して、土嚢を積んだことがあると聞きました。きっとハザードマップには載っていないけれども危険な場所はあるのだと思いました。

次に、いざ土砂災害が近づいた時の備えや対策について考えてみました。

私の家では、大雨が続いたり台風が近づいた時などに、地区の防災無線や放送が入ります。

避難場所は地区の公会場になっていますが、そこまでの道は狭く、街灯も少なくなっています。また脇に川が流れていて、普段自転車を通る時も怖いです。なので避難の時は、大人のひとと、早めに移動しようと思います。

最近では突然の大雨で急に大きな災害が発生することがあるので、その時に正しい行動ができるかどうかわかりません。夏休み中でも水害のニュースをいくつか聞きました。こうした災害は過去の過ぎ去った出来事ではなく、今も日本各地で起こっている身近な災害であること、昔の人達が行事にしたりして、伝えようとした災害の記憶を忘れずに、自然の厳しさに向き合っていきたいと思いました。